

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570660298		
法人名	医療法人社団慶城会		
事業所名	グループホーム仰星台	ユニット名	2号館
所在地	日向市大字塩見10946-1		
自己評価作成日	平成30年6月20日	評価結果市町村受理日	平成30年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4570600298-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成30年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは自然豊かな高台に位置しており近隣には同法人の関連施設があります。医療機関が母体でもあり、介護職による小さな気づきを基にホームの看護師や主治医との連携を図ることで、適切な受診が行え健康で安心して暮らせるように努めております。ホームの畑には季節の野菜が豊富に育ち利用者様とできる範囲で食材の収穫を行ない季節感を味わっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である医療機関は地域の中心施設として存在し、ほとんどの利用者が入居前から、運営者である医師をかかりつけ医としている。定期の受診から終末期の対応においても医療と介護の緊密な連携が確立されている。また、職員の資質向上のための研修会の開催や資格取得に向けても全面的な支援をしている。職員も仕事への気づき等、感じたことを日誌に記録し、全員が共有して改善へと取り組むなど意識を持って業務を行っている。管理者は、「利用者の安心は職員の笑顔から」との思いがあり、悩みや相談にはいつでも対応できるよう心掛け日々の支援につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である「笑顔と挨拶」を把握し、常に意識を持ち取り組んでいけるよう心掛けています。利用者様一人ひとりのペースでその人らしく生活出来るよう環境作りを重視し実践に努めています。		利用者のニーズや、地域との関係性を重視した理念を、職員全員で話し合い作っている。自己評価を実施するにあたり、全員が理念の振り返りを行いながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム開催の行事(夕涼み会・餅つき会)は地域の方々の協力を頂き、また、地域の清掃活動にも積極的に参加することで、交流に努めています。		ホームの行事案内に多くの地域住民の参加があり、地域の行事には職員自らが積極的に参加し、利用者と共に交流するよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(2ヶ月に1回)やホームの行事を通して、認知症の方への理解や接し方について伝えています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議メンバーからの意見・アドバイス等を頂く事で、職員一人ひとりの意識の向上につながっています。		運営推進委員のメンバーがほぼ固定している中で会議の開催となっている。ホーム内の安全面や介護施設の仕組み等の質問にも分かり易く説明がされている。しかし毎回議題が報告中心であり、記録も具体性に乏しいものとなっている。	多彩なメンバーに委員として参加してもらうことで議題の幅も広がり、より発展性のある会議の運営が望まれる。また、議事録の記録方法を検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者から情報や意見・アドバイス等を頂き課題として取り組んでいけるよう心掛けています。不明な点も相談し助言を頂き協働関係が築けています。		市担当者が運営推進会議に毎回参加し、助言や情報提供をしている。必要時には会議の後に互いに情報交換を行い、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、開放し見守り重視、安全確保に心掛けています。身体拘束の無いケアに取り組んでいます。		ホーム内外の研修会で拘束について学ぶ機会が多く、職員は理解を深めている。利用者の行動を理解し、自由で抑制のない支援を実践できるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ積極的に参加しています。研修後は勉強会で報告し、何が虐待にあたるのかを学ぶことによって、言葉使いなど職員の意識付けを行っています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当する利用者はおりません。研修などで学ぶ機会を設け、参加出来るよう努めていきます。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類一式の説明を行い、ご理解、同意等を頂いております。利用者、家族の不安や疑問、ホームでの希望を尋ね、十分な説明を行いご理解を頂いております。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族が意見や要望を伝えやすい環境・雰囲気作り・良い関係性が築けるよう努めています。要望等があった際は、定例会で検討し改善に努めています。	毎月、写真や手紙で利用者の様子を知らせている。面会時に会話の中から酌み取ったり、運営推進会議の中で意見を聞いて運営に反映させるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意思表明をする機会は、日常的に設けています。定例会等で職員の意見を受け入れ、意欲向上・質の確保にも繋げています。	申し送りノートを使って日々の気づきを共有し、職員会議で討議している。提案事項は運営者にも伝え検討されている。利用者にあったベッドの変更や、排泄に関して改善につながっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、資格取得をサポートしていただき、職員のレベルアップに繋がるよう支援して頂いております。職員がやりがいや向上心を持って働ける様、配慮して頂いております。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が均等に研修へ参加するよう心掛けています。定例会で、その学びや新しい知識を共有することによって、質を向上に努めています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の管理者会議や県北グループホーム協議会に参加し、情報の共有をすることでサービスの質の向上に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に利用者様の要望等に傾聴し、話しやすい雰囲気づくりに努め、安心感のある良い関係性を築いていけるよう心がけています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望を受け止め、相談しやすい雰囲気作り、信頼関係が築けるよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族にとって今必要としている支援は何かを考え、出来る限りの情報を引き出し、安心して生活が出来る環境づくりに努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員と一緒にできる楽しみ、興味がある事など、関わりを多く持つことで共に過ごし支えあう関係性に努めています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は日々の様子や今の気持ち等を報告し、家族との時間が多く持てるよう心がけています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	慰問や知人の面会、地域の理容師の方との触れ合いを多く持ち、関係性が途切れないよう努めています。	行きつけの店に行くことや、馴染みの人と会うなど関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行うレクリエーションや個別作業など取り組んでいます。個別の作業も同卓にすることによって、他の作業にも興味を持ち利用者同士の関わりを大事にすることを心掛けています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、ご家族の意向をケースワーカーに伝え情報交換を行っています。ご家族の要望、希望に配慮して頂けるよう支援に努めています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを言える方は傾聴しその希望に添えるよう支援し、困難な方には、職員間でその人らしい暮らしへの支援に努めます。	入浴や食事等ケア全般において、利用者の自己決定を促すような言葉かけを行っている。表情や仕草、個別記録等で思いの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族から生活歴、馴染みの暮らし方等を聞き、把握することでその人らしい生活に近づけるよう、支援に努めていきます。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの思いや希望などに傾聴し、その人らしい生活に近づけるよう努めています。今の状態を把握し、職員間で情報交換を行っています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・ご家族・職員と話し合うことで、ケアの在り方や課題点を見だし、その人らしく生活出来るように介護計画を作成しております。	利用者が生きがいや役割を持ち、自分らしく暮らせるよう本人や家族の意向も聞いて、ケア会議の中で話し合い、具体的な介護計画が作成されている。状況変化に応じた見直しも適宜に行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録や職員間での情報を共有し、気づきや工夫をケアの実践に繋げ介護計画に活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の状況などに対応できるよう、事業所の機能を活かしながら、出来るサービスや柔軟な支援に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム行事には地域の方々に協力を得ながら取り組み、散髪では地域の理容所から出張理容に来ていただいています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期受診を行っています。かかりつけ医が代表者となっている為、必要時、緊急時など連絡し、適切な医療が受けられます。	全員が入居前からのかかりつけ医であり、本人、家族も安心、納得した医療を受けている。定期受診はホーム対応としているが、情報は関係者全員で共有し、急変時にも対応できるよう取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師とは連絡が取れる状況にあります。個々の利用者の状態を把握し、情報・気づきをつたえ適切な受診や看護が受けられるよう支援に努めています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会し、主治医・ソーシャルワーカー・病院看護師から現状を把握できるよう情報共有しております。ご家族との連携も図り、対応に努めています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看護師から状態の悪化、急変時の対応などの説明を行います。ご家族の希望を優先し、職員全体で話し合い、利用者様・ご家族の支援に取り組んでいます。	入居時にホームの方針を説明し、意向の確認を行っている。状態の変化に応じて、その都度かかりつけ医、家族を交えて話し合い、方針の共有に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変に備えて敏速に対応が出来るよう勉強会の議題として学んでいます。また、緊急時の連絡方法など、周知しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年に3回実施し、防災用品などの備蓄も確保できています。ホーム内外の危険箇所にも職員間で把握し、地域の方々との協力体制も築いています。	防災頭巾、備蓄品等の準備も整い、定期的な訓練を行っている。また重度利用者の居室ドアには外部からの救助者にわかるように目印カードが掛けてある。しかし、地域住民が参加した訓練がまだ実施されていない。	地域住民も参加する形の訓練計画を立て、運営推進会議や地元の消防団を通して、地域へ発信を行い、早急に訓練の実施につなげることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、その方に合った声掛け・対応・ケアの統一を工夫しながら、プライバシー確保の徹底に努めています。	職員一人ひとりが、プライバシーに関するチェックシートを用い自己評価を行っている。それを全職員で確認し個々の気づきにつなげている。誇りを傷つけないような言葉かけや、利用者の言葉を否定しないことを全員が心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定を尊重し支援しています。おやつ、飲み物、誕生日プレゼント等を提供する等、本人の思いや希望を表し、自己決定できるよう働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、本人の希望に添ってその人らしい暮らしが出来るよう支援し努めていきます。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、本人の好みに添って選んで更衣していただき、整髪は鏡を見て整髪することで気分転換を図り、おしゃれができるよう支援しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜収穫から始まりその食材を使用し、調理は出来る範囲で利用者と職員で行っております。食後も、台拭きやお膳拭きを一緒にしております。	利用者によって気分、体調に合わせた食事の支援を行っている。畑で収穫した野菜類をテーブルに置いて、その日の献立を決めたり、食後にテーブル拭きなど利用者と一緒に活動するよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取量を「食品群分けシート」を活用しています。体重管理を行い、1日を通して必要なカロリーや水分の確保に努めています。排尿の回数や色に意識を持ち、観察を行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った声掛けで口腔内の清潔保持に努めています。義歯の不具合等はご家族に相談し受診をお願いしております。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや時間・習慣を把握することで、時間毎に声掛けを行いスムーズにトイレで排泄出来るよう支援しています。	排せつパターンや業務日誌の記録を基に、紙パンツから布パンツに変える支援に取り組んでいる利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、水分補給や食物繊維の多い食品を取り入れた食事の提供や腹部マッサージなどを行い自然排便ができるよう努めています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせた声掛けやタイミングに合わせてゆっくりと気持ちよく入浴が出来るよう支援しています。皮膚の状態を観察し、看護師への報告を行っています。	入浴を拒む利用者には声かけして浴室に誘導するなど、自然に入浴につなげる工夫がされている。長湯の方や湯温の好みなど、利用者の希望に沿った支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムやその時々状況に応じて、昼寝・テレビ鑑賞等、安心して睡眠や休息を取れるよう支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の説明書をもとに副作用などを把握し、確認できるよう努めています。内服薬の準備や服薬時のWチェックを行うことにより、誤薬防止に努めています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来ること、やりたいこと、楽しみ、趣味等を一緒に考えながら自分らしく楽しめる生活ができるように努めています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい場所を聞き外食も兼ねて、ドライブ等の外出支援に努めています。また、おやつ時間を職員も一緒に玄関ポーチで摂り、戸外に出る支援しています。	職員が用事で車で出掛ける時に声かけし、希望の利用者は一緒に外出したり、気候の良い時には散歩に出かけている。家族の協力で外食や買い物支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて買いたいものを選んでいただいています。現在ご家族からの預かり金はない為、施設立て替えて購入し、請求時にお支払いをお願いしております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話の希望があれば、時間帯を考慮し、連絡が取れるよう支援しています。県外のご家族から郵送がきた場合等は、こちらから電話し本人との会話を支援しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間の中で季節を感じていただけるように、居室内・ホーム内に季節感のある装飾、イベント毎の写真を掲示し、心地よい生活が出来るよう努めています。	広間の真ん中に食卓があり、四方が廊下になっているが、動線が確保され、車いすや手押し車の利用者も安全に往来できるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大型テレビ前のソファでゆっくりとした時間を過ごしたり、テレビ鑑賞やカラオケを行う場として楽しんだりと共用空間を確保できるよう努めています。和室でも横になり寛げるよう心掛けています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの写真や使い慣れた物、食器類など本人が心地よく過ごせる環境作りに努めています。	本人、家族の意向を確認しながら、入居前の暮らしが継続できるよう支援している。テレビやたんすなどの持ち込みや、和室を希望の利用者には畳を入れた部屋で居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は手摺を設置し、段差もなく安全に生活ができるような作りになっています。本人の身体機能が維持できる生活が送れるよう、歩行時の身体に負担が無いような環境作りを心がけています。			